

株式会社 祥月 ホテルマイユクール祥月

●神奈川県箱根町

住宅・設計・施工

事務所・複合施設

教育・スポーツ施設

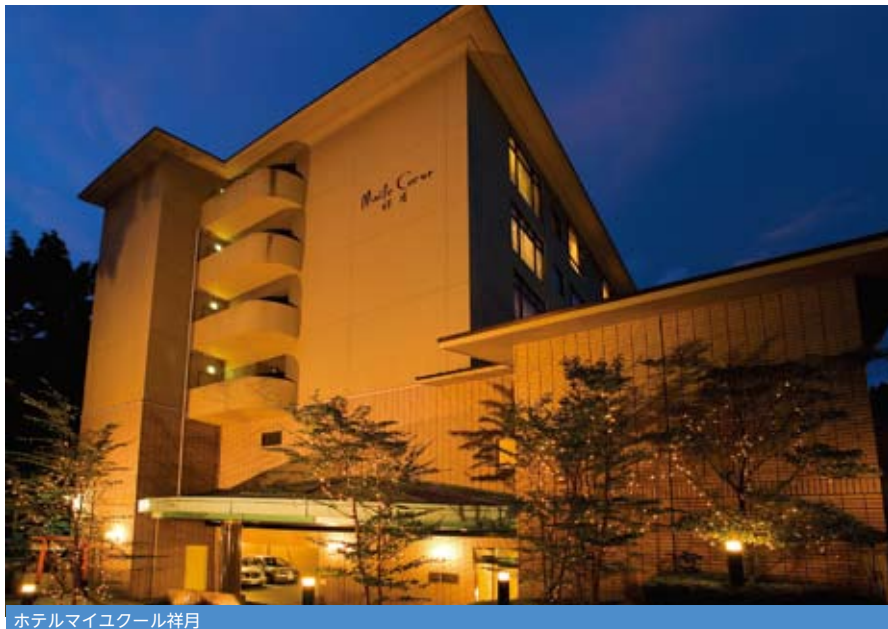
商業施設・飲食店舗

医療・福祉施設

宿泊・温泉施設

産業

贈呈理由 給湯の熱源リニューアルにおけるハイブリッド給湯システムの導入



ホテルマイユクール祥月



業務用ヒートポンプ給湯機

箱根路・湯本温泉郷の高台にたたずむ「ホテルマイユクール祥月」は、良質な源泉と美味なる料理を旨とする泊食分離タイプのスパホテルである。マイユクールとはフランス語で「心とこころの結び目」を意味し、その言葉通り、ゲストたちが心を結ぶホテルとして、ゆったりとした“憩いのとき”を演出している。

同ホテルのお客さまの多くが温泉を楽しむに来館しており、宿泊滞在中に幾度も入浴されることも珍しくない。そのため1人あたりの給湯量も多く、年間を通して給湯に多くの重油を消費していた。重油価格の高騰はホテル経営に大きな負担を掛けており、お客さまサービスを低下することなくコストを削減することが喫緊の課題となっていた。

ることになった。

給湯の使用状況が完全にパターン化されておらず万一の湯切れリスクがあること、および機器設置スペースも限られていたことから、業務用ヒートポンプ給湯機とボイラを組み合わせた「ハイブリッド給湯システム」を導入することに決まった。

ヒートポンプ給湯を最大限活かし、省エネ・省コストを実現

ハイブリッド給湯システムは、夜間にヒートポンプ給湯機でつくったお湯を貯湯槽に貯え、昼間のピーク給湯負荷時はボイラがバックアップする仕組みである。しかし、同ホテルでは夜間に

も給湯使用があったため、夜間はボイラからの給湯のみでまかない、業務用ヒートポンプ給湯機は蓄熱運転することだけに専念させることとした。この運転方法により、蓄熱の利用を最大限に活かすことに成功した。

導入後もできる限り効率的な運転となるように、設備のチューニングを継続して実施しており、更新前と比べて約28%の一次エネルギー消費量削減効果と約19%のエネルギーコスト低減を見込んでいる。

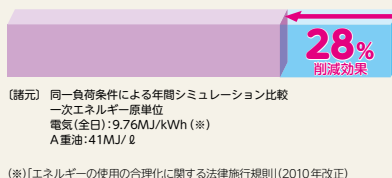
これからもお客さまがゆったりとした“憩いの時”を感じつつ、地球環境の保全にも大きく貢献できるように、省エネルギー対策に引き続き取り組んでいく方針である。

ハイブリッド給湯システム導入で燃料コストの大幅低減を目指す

問題は給湯用の重油ボイラの老朽化だった。経年劣化により効率が落ちており、無駄な燃料を費やしているとも思われた。また老朽化によるメンテナンスや故障修理の費用増加も懸念されるため、最適な給湯システムを検討す

▼一次エネルギー消費量削減効果

今回採用 業務用ヒートポンプ給湯機
重油温水機
従来方式 重油温水機



ホテルマイユクール祥月

所在地: 神奈川県足柄下郡箱根町湯本468-1
蓄熱設備設計: エヌ・ケイ・テクノ(株)
蓄熱設備施工: エヌ・ケイ・テクノ(株)
延床面積: 4,066.96㎡
竣工年: 2013年(更新)

●蓄熱設備概要

業務用ヒートポンプ給湯機 15kW×3台[日本サーモエナジー] 貯湯槽: 10㎡